



ルシア塩満 ○アルパ、ギター、歌

幼い頃、バラグアイで生活。そのとき聴いた民俗楽器アルパの音色に魅せられ、習得するため留学し、第一人者クリスティアーノ・ノバス・モンヘス氏の指導を受ける。1975年にプロ・デビューを果たし、以来アルパ奏者として活動を続ける。日本のアルパ界をリードし続け、アルパの普及に寄与。現在、多方面からわが国随一の奏者と認められる。アルゼンチンの世界的な音楽祭「コスキン・フェスティバル」にこれまで5回出場するなど、海外でも実力を高く評価されている。国内では長年にわたってコンサート、テレビ・ラジオ出演、レコード制作を通じてアルパとバラグアイ音楽を広く紹介し、その功績が認められてバラグアイ共和国から1995年に（文化功労賞）、2004年に（国家功労勲章/コマンドー地位）が授与される。また、アルパ普及のために後進の指導にも力を注いでいる。これまでに四代にわたるバラグアイ大統領の御前演奏を任せられるなど、日本とバラグアイの文化交流にも貢献している。8枚のCDを制作し、うち7枚は自主制作というポリシーをもちながら活動続ける。



宮川久志 ○レキント・ギター、チャランゴ、ケーナ、歌

クラシックギターを専門学校で学ぶために上京し、その後演奏活動を開始する。ルシア塩満と知り合うようになってからはバラグアイ音楽にも興味を覚えるようになり、1985年から本格的にルシア塩満トリオのメンバーとして演奏活動に加わる。クラシックで培ったテクニックはバラグアイ音楽の演奏でも真彩を放つ。1987年にはスペイン、1991年にはドイツ、フランス、オランダなど5か国を遊学し、ギターやリュートの技術を習ってくる。



高山直敏 ○ギター、クアトロ、チャランゴ、サンボニーヤ

高校卒業後、音楽専門学校で音楽理論を学ぶ。フォルクローレの演奏は高校時代から始め、その頃ルシア塩満の演奏を聴いてからバラグアイ音楽に傾倒するようになり、1994年からルシア塩満トリオのメンバーとして活動を始める。アルゼンチンの「コスキンフェスティバル」にはルシア塩満のギター奏者として3回出場、本場の演奏に触れる機会を得る。1997年には自己のグループのCDを自主制作する。



高橋マサヒロ ○ケーナ、サンボニーヤ、フルート

「グルーポ・カンタティ」「ルス・デ・ナスカ」のメンバーとして演奏活動後、フォルクローレの本場ボリビアへ選り研修を積み、1994年にはボリビアでCDを録音し当地のマスコミに注目される。1995年にはケーナ、サンボニーヤの新たな音楽性を追求するためジャズ分野で活動するメンバーとグループを結成して演奏活動に入る一方、1996年と2005年にはCDも制作する。ケーナ、サンボニーヤのスペシャリスト。



石渡晃子 ○フルート

音楽一家に育ち幼い頃から音楽に親しむ環境に恵まれる。15歳よりフルートを始め音楽大学に進みフルートを専攻する。卒業後は数々のコンサートやイベントで活躍する一方、スタジオ・ミュージシャンとしても活動する。最近はおカリナの魅力に惹かれオカリナ奏者としての活動も開始し、自己のユニットを結成して幅広く活動中。2004年にはオカリナメーカー大塚楽器からCD「a la mode」を発売。